

令和7年度第2回城東区教育会議 議事要旨			
日時	令和8年3月10日(火)19時～20時30分	場所	城東区役所3階311・312会議室
出席者	教育会議委員、区内小中学校幹事校長 城東区長、城東区副区長、子育て教育担当課長、子育て教育担当課長代理		
内 容			
報告案件	[主な意見等と区の見解] ○:委員、●:区役所、オブザーバー 【令和7年度区事業の進捗状況について】 ・(資料2)スクールサポートルーム(SSR)の運用(整備)状況について ○スクールサポートルームの利用が増えているのは、相談・利用しやすい状況になっているということ とであり、今後も継続してほしい。 ⇒●スクールサポートルーム運営で最も大事なものは支援者の確保。学校の状況にもよるが、部屋に 常駐して対応できる教員はいないので、臨時スタッフの採用や通級教室等と一体で運用するなど 工夫しながら取り組んでいる。また、子どもが来たくような場所にするための工夫も必要である が、家具やカーペットなどは区に購入してもらえたので、これからもっと良いものにしていきたい。 (オブザーバー) ⇒●部屋の確保が大きな課題であるが、それ以外にも、思春期の生徒は他人と同部屋を嫌がった り、担任でないと話ができないなど支援者の問題など様々なものがある。しかいながら、部屋が整 備されたことで、不登校在籍率の改善につながった実感はある。(オブザーバー) ⇒●人員確保は各校共通の課題であると認識している。JOTO ふらっと教室(城東区不登校児童生 徒支援事業)の利用により支援員を派遣することも可能であるが、スタッフに限りもあるため、今後 さらなる工夫や各学校での取組の共有なども含め検討する。(課長) ○スクールサポートルームの設置が「準備段階」となっている小学校があるが、理由は何か。今後、 設置は進むのか。 ⇒●部屋の確保や動線の問題などで場所の選定に時間を要した学校もあるが、全校で整備が完了 した。運用状況の集計については、スクールサポートルームのみでなく、校長室や他の部屋を活用 している場合もあるため、それらを含め広く教室に入れにくい子どもをどのぐらい対応したかを報告い ただくこととしているが、学校ごとの報告内容のばらつきもあるため、集計方法の考え方をあらため て周知する。(課長) ・(資料4)不登校児童等への効果的な支援事例について ○事例は支援の努力が分かる一方で、地域での子どもとの関わりが薄くなってきていると感じてい る。こども食堂、また、クラブ活動での先輩、後輩の関わりなどの視点がもっと必要ではないか。行 政の施策や学校だけに任せず、地域で子どもを支える、子ども同士でサポートしようという発想も大 事だと感じる。 ⇒●不登校の要因は様々あり、対人関係以外に家庭の問題であるものもある。今回ご紹介したの は、区、学校、関係機関が連携し、再登校につながった事例であるが、学校や行政だけでなく、地 域だからできること、相談しやすい場合もあると思うので、地域の皆様にご協力いただけるように、 仕組みを整えていきたい(課長)。		

	・(参考資料)各事業概要説明資料について ○大阪市の不登校数の在籍比率の数値が高く見えるが、算出の定義は何か。 ⇒●30 日以上欠席があったものを不登校としている。毎日登校はしているが、遅刻や早退が多いものは含まれないため、そういった不登校傾向も含めるとさらに多くなるとされる。(課長) ○不登校が何%という数だけでなく、子どもの状況を学校が把握し、理解して対応しているかが重要。 ○他の自治体の不登校やいじめ対応に関する成功事例をリサーチし、城東区の取組に活かしてほしい。市長からの指示待ちではなく主体的に実行していただきたい。
議 題	【城東区におけるいじめ・不登校対策事業について】 (資料9)スクールロイヤーによる出前授業について ○令和8年度に実施するスクールロイヤー出前授業の36校は回数か。希望が多いと聞くが実施はどうするのか。 ⇒●概ね36回の想定。学年・クラスの分け方等によるが、同一校で複数回実施する場合もある。全校への希望照会の結果、想定を超える希望があり、弁護士側の体制や対象学年の内容面も踏まえ、実施時期等を調整中。(課長代理) ●今年度に出前授業を利用したが、具体事例を用いてすごく分かりやすい内容で、子どもたちも普段ふれあう機会のない弁護士に興味津々であった。保護者対応などの教職員向け研修としても非常に有用である。(オブザーバー) ●学校ではSNSのトラブルが非常に多く、予防教育として弁護士の出前授業を利用した。法的な根拠を示しながら、教員とは違う観点でお話され、非常に効果的であったと感じている。(オブザーバー) 【公民連携の取組について】 ・(資料10)取組事例の紹介について ○大阪公立大学との包括連携について、地域コミュニティとの連携などは想定されているのか。 ⇒●本日は教育会議であるため、教育分野として小学校との運動面での連携で、ボールを投げる動きにフォーカスした取組をご紹介します。地域との連携の取組としては、学校で組織されたボランティア部に登録している学生が、地域のゴミ拾いや祭りなどのイベントに参加するなどの取組を調整している。公立大学は地域貢献をしたいという強い考えをお持ちなので、区としても地域との連携の仲を取り持っていきたい。また、今後も様々な分野で連携を進めていきたと考えているが、皆さまからなにかアイデアなどありましたらお寄せいただきたい。(区長) ○企業連携についてタカスタンダードの工場見学や職場体験は他校にも広げられるか。 ⇒●地域貢献活動の取組の一つとして積極的に取組まれており、区の校長会においても情報発信されており、日程調整等の制約はあるものの、方向性として拡大余地はある。校長会等とも共有しながら連携を進めていく。(課長代理)

資料	(資料 1) 令和 7 年度第 1 回教育会議開催後に寄せられたご意見と区の回答について (資料 2) スクールサポートルーム (SSR) の運用 (整備) 状況 (資料 3) こどもサポートネット事業の実施状況 (資料 4) 不登校児童等への効果的な支援事例 (※非公開) (資料 5) 令和 8 年度城東区運営方針 (案)【概要版】 (資料 6) 令和 8 年度城東区運営方針 主な具体的取組み (案) (抜粋) (資料 7) 令和 8 年度予算事業概要説明資料 (資料 8) 第 5 回 城東区中学生サミット実施報告 (令和 8 年 1 月 17 日開催) (資料 9) スクールロイヤーによる出前授業について (資料 10) 公民連携にかかる取組事例の紹介 (参考資料) 各事業概要説明資料
----	--